

1. はじめに

近年 200 カイリ漁業専管水域の実施にともない、水産生物資源の確保、増大をはかることが重要な課題となり、沿岸海域を整備開発して、水産資源の増養殖を促進し、新規な漁場を積極的に造成していくことが重要なテーマとなってきた。この新規な漁場の造成手段の一つとして、従来から実施されている沈設型の漁礁と共に、回遊性浮魚類に対する蝟集効果をねらった表層浮魚礁、中層浮魚礁に大きな関心が寄せられている。このような背けいに基づき、沖縄県水産試験場では、パヤオ設置試験を、また（株）東レの協力により中層浮魚礁設置試験をおこなってきており、浮魚礁の蝟集効果機能、波浪、海流に対する耐久性等、数々の知見が蓄積されつつある。

今回中層浮魚礁の各部材を疲労度試験に供するため、これを回収し、一応その設置試験を終結させたので、ここに今までの調査結果を取りまとめて報告する。

2. 試験の目的

回遊性魚類に対する蝟集効果、波浪、海波に対する耐久性、貝類、藻類等の付着状況重量を調査し、構造物の耐久性に対する設計指針を得るとともに、蝟集効果に対する潜在能力について検討する。

3. 試験地区名

沖縄本島南部糸満地区

4. 対象生物、対象漁法

対象生物、カツオ、マグロ、カジキ、サワラ、スマ、シイラ、ツムブリ、ムロアジ等、
対象漁法、一本釣漁法、曳縄漁法、

5. 調査期間

昭和56年2月14日～昭和57年11月24日

6. 実施機関および協力機関

実施機関、沖縄県水産試験場

協力機関、東レ(株)、琉球大学理学部、沖縄県漁業者センター、糸満市役所水産課、
糸満漁業協同組合、